

最新のドキュメントはGitHubにあります。
質問や問題があればGitHubのissueまで ご投稿ください。
<https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-supports>

プラグインのインストール方法、機能について説明しています。

目次

- [MIDI Plugin for Mobile and Desktop](#)
- [プラットフォームで利用可能なMIDIインタフェース](#)
 - [制限事項](#)
- [プラグインのインストール](#)
- [ビルドの後処理\(PostProcessing\)について](#)
 - [iOS](#)
 - [Android](#)
 - [Android: CompanionDeviceManagerを使ってBLE MIDIデバイスを探す](#)
- [機能の実装方法](#)
 - [プラグインの初期化](#)
 - [プラグインの終了](#)
 - [MIDIデバイスの接続・切断のイベントハンドリング](#)
 - [deviceIdからMIDIデバイスの情報を取得する](#)
 - [GetVendorId / GetProductIdメソッドが利用可能な環境](#)
 - [VendorIdの例](#)
 - [ProductIdの例](#)
 - [MIDIイベントの受信](#)
 - [MIDIイベントの送信](#)
 - [シーケンサー機能の利用](#)
 - [シーケンサーの作成と開始](#)
 - [SMFをシーケンスとして読み出し、再生する](#)
 - [シーケンスを記録する](#)
 - [シーケンスをSMFとして書き出す](#)
- [その他の機能、実験的な機能](#)
 - [RTP-MIDI 機能](#)
 - [MIDI Polyphonic Expression\(MPE\)機能の利用](#)
 - [MPEゾーンの定義](#)
 - [MPEイベントの受信](#)
 - [MPEイベントの送信](#)
 - [Android: BLE MIDIデバイスの検索にCompanionDeviceManagerを使う](#)
 - [Android, iOS, macOS: Nearby Connections MIDIの利用](#)
 - [依存パッケージの追加](#)
 - [Scripting Define Symbolの設定](#)
 - [Android向けの設定](#)
 - [近隣のデバイスへの広報\(Advertise\)](#)
 - [広報されたデバイスを見つける](#)
 - [MIDIデータをnearbyで送受信する](#)

- [Meta Quest\(Oculus Quest\)デバイスを使う](#)
 - [USB MIDIデバイスと接続する](#)
 - [Bluetooth MIDIデバイスと接続する](#)
- [テストしたデバイス](#)
- [連絡先](#)
 - [GitHubでの不具合報告、サポート](#)
 - [プラグイン作者](#)
 - [使用した自作のオープンソースソフトウェア](#)
 - [他者提供による、使用したサンプルMIDIデータ](#)
- [バージョン履歴](#)

MIDI Plugin for Mobile and Desktop

このプラグインはモバイルアプリ(iOS, Android)、デスクトップアプリ(Windows, OSX, Linux)、WebGLアプリにMIDI送受信の機能を追加します。
現在は「MIDI 1.0プロトコル」のみ実装されています。

プラットフォームで利用可能なMIDIインタフェース

各プラットフォームで対応しているMIDIインタフェースは下記の通りです。

Platform	Bluetooth MIDI	USB MIDI	Network MIDI (RTP-MIDI)	Nearby Connections MIDI
iOS	○	○	○	○
Android	○	○	△(試験的に対応)	○
Universal Windows Platform	-	○	△(試験的に対応)	-
Standalone OSX, Unity Editor OSX	○	○	○	○
Standalone Linux, Unity Editor Linux	○	○	△(試験的に対応)	-
Standalone Windows, Unity Editor Windows	-	○	△(試験的に対応)	-
WebGL	○	○	-	-

制限事項

Android

- USB MIDI は API Level 12 (Android 3.1) 以上で利用できます。
- Bluetooth MIDI は API Level 18 (Android 4.3) 以上で利用できます。
- `Mono backend` でのビルドでは遅延の問題が発生し、`armeabi-v7a` アーキテクチャしかサポートされません。
 - この問題を解消するためには、Unityの設定 `Project Settings > Player > Configuration > Scripting Backend` を `IL2CPP` に変更します。
- Nearby Connections MIDI の機能を使う場合はAPI Level 28 (Android 9) 以降が必要です。この機能を使う場合、アプリは API Level 33 (Android 13.0) 以上でコンパイルする必要があります。

iOS / OSX

- iOS 11.0 以上で動作します。
- Bluetooth MIDIはCentralモードのみサポートします。

UWP

- UWPのバージョン 10.0.10240.0 以上で動作します。
- Bluetooth MIDIはサポートしていません。
- Network MIDI(RTP-MIDI) 機能を使う場合は、`Project Settings > Player > Capabilities` の設定にある `PrivateNetworkClientServer` を有効にしてください。

Windows

- Bluetooth MIDIはサポートしていません。

WebGL

- サポートされるMIDIデバイスはOSやブラウザに依存します。
- WebGL はUnityWebRequestを使って他のサーバーのリソースにアクセスできない場合があるので、SMFなどのリソースファイルを `StreamingAssets` に置いてください。
- `WebGLTemplates` ディレクトリの `index.html` ファイルを下記のように変更する 必要があります。`unityInstance` 変数を経由してUnityのランタイムにアクセスできるようにしています。
 - もしくは、`MIDI/Samples/WebGLTemplates` のファイルを `Assets/WebGLTemplates` にコピーし、`Project Settings > Player > Resolution and Presentation > WebGL Template` の設定から、`Default-MIDI` か `Minimal-MIDI` のテンプレートを選択します。
 - 詳しくは、[Unity公式のWebGL Templatesドキュメント](#) を参照してください。

オリジナルコードの抜粋:

```
script.onload = () => {  
  createUnityInstance(canvas, config, (progress) => {  
    progressBarFull.style.width = 100 * progress + "%";  
  }).then((unityInstance) => {
```

修正後: グローバル変数 `unityInstance` を追加

```
var unityInstance = null; // <- HERE  
script.onload = () => {  
  createUnityInstance(canvas, config, (progress) => {  
    progressBarFull.style.width = 100 * progress + "%";  
  }).then((unityInst) => { // <- HERE  
    unityInstance = unityInst; // <- HERE
```

Network MIDI

- エラー訂正(RTP MIDIジャーナリング)プロトコルは上記に示された「試験的」のプラットフォームでは実装されていません。

プラグインのインストール

1. アセットストアViewからunitypackageをインポートします。
 - パッケージを更新した場合、`Assets/MIDI/Plugins/Android` に古いバージョンのファイルがある場合があります。その場合は古いバージョンのaarファイルをすべて削除してください。
2. プラットフォーム(iOSやAndroid)を選択して、サンプルアプリをビルドします。
 - サンプルシーンは `Assets/MIDI/Samples` ディレクトリにあります。
3. Nearby Connectionsのパッケージがインストールされていれば、最新版への更新が必要になる場合があります。

ビルドの後処理(PostProcessing)について

PostProcessing: iOS

- ビルドの後処理によって、追加のフレームワークが自動的に追加されます。
 - 追加のフレームワーク: `CoreMIDI.framework`, `CoreAudioKit.framework`
- `Info.plist` が自動的に調整されます。
 - 追加のプロパティ: `NSBluetoothAlwaysUsageDescription`

PostProcessing: Android

- ビルドの後処理によって、`AndroidManifest.xml` が自動的に調整されます。
 - 追加のパーミッション: `android.permission.BLUETOOTH`, `android.permission.BLUETOOTH_ADMIN`, `android.permission.ACCESS_FINE_LOCATION`, `android.permission.BLUETOOTH_SCAN`, `android.permission.BLUETOOTH_CONNECT`, `android.permission.BLUETOOTH_ADVERTISE`.
 - 追加のfeature: `android.hardware.bluetooth_le`, `android.hardware.usb.host`
- Oculus Quest 2 でUSB MIDI機能を使いたい場合、接続を検知するために下記のコードをコメントアウト解除する必要があります。

`PostProcessBuild.cs` の一部

```
public class ModifyAndroidManifest : IPostGenerateGradleAndroidProject
{
    public void OnPostGenerateGradleAndroidProject(string basePath)
    {
        :

        // NOTE: If you want to use the USB MIDI feature on Meta Quest 2(Oculus
        Quest 2), please UNCOMMENT below to detect USB MIDI device connections.
        // androidManifest.AddUsbIntentFilterForOculusDevices();
    }
}
```

Android: CompanionDeviceManagerを使ってBLE MIDIデバイスを探す

Androidでは、[CompanionDeviceManager](#)を使ってBLE MIDIデバイスの接続を見つけることができます。

この機能を有効にするには、`Scripting Define Symbols` 設定に
`FEATURE_ANDROID_COMPANION_DEVICE` を追加します。

Project Settings > Other Settings > Script Compilation > Scripting Define Symbols

NOTE: この機能を使うことで、Meta(Oculus) QuestデバイスではBluetooth MIDIデバイスを見つけて接続できます。

機能の実装方法

基本的なMIDI機能の使い方について解説しています。

プラグインの初期化

1. MonoBehaviourの `Awake` メソッドから `MidiManager.Instance.InitializeMidi` メソッドを呼び出します。
 - `MidiManager` という名前の GameObject が、ヒエラルキービューの `DontDestroyOnLoad` の下に自動的に作成されます。

NOTE: EventSystem コンポーネントが既に他の場所に存在する場合には、
`gameObject.AddComponent<EventSystem>()` メソッドの呼出を
`MidiManager.Instance.InitializeMidi` メソッドから削除してください。

2. (BLE MIDI のみ)
 - `MidiManager.Instance.StartScanBluetoothMidiDevices` メソッドを呼び出して、周囲の BLE MIDI デバイスを探します。
 - このメソッドは `InitializeMidi` メソッドのコールバックAction内から呼ばれるべきです。
3. (RTP-MIDI のみ)
 - `MidiManager.Instance.StartRtpMidiServer` メソッドに セッション名 と udpポート番号 を指定して呼び出すと、RTP-MIDI セッションの受け付けが開始されます。

```
private void Awake()
{
    // このgameObjectでMIDIイベントを受信します。
    // gameObjectは IMidiXXXXXEventHandler を実装する必要があります。
    MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject(gameObject);

    // MIDI 機能の初期化
    MidiManager.Instance.InitializeMidi(() =>
    {
        #if (UNITY_ANDROID || UNITY_IOS || UNITY_WEBGL) && !UNITY_EDITOR
```

```

        // Bluetooth MIDI デバイスのスキャンを開始
        MidiManager.Instance.StartScanBluetoothMidiDevices(0);
    #endif
    });

    #if !UNITY_IOS && !UNITY_WEBGL
        // 5004 ポートで、"RtpMidiSession" というセッション名でRTP MIDI サーバーを開始
        MidiManager.Instance.StartRtpMidiServer("RtpMidiSession", 5004);
    #endif
}

```

プラグインの終了

1. MonoBehaviour の `OnDestroy` メソッド内で `MidiManager.Instance.TerminateMidi` を呼び出します。
 - このメソッドはMIDI機能を使い終わって、シーンが終了する際に呼ばれるべきです。

```

private void OnDestroy()
{
    // 全てのMIDI 機能を停止する。
    MidiManager.Instance.TerminateMidi();
}

```

MIDIデバイスの接続・切断のイベントハンドリング

1. `MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject` メソッドを用いてイベントを受信するためのGameObjectを登録します。
2. イベントを受信するため、インタフェース `IMidiDeviceEventHandler` を実装します。
 - 新しいMIDIデバイスが接続された際には、`OnMidiInputDeviceAttached`, `OnMidiOutputDeviceAttached` が呼ばれます。
 - MIDIデバイスが接続解除された際には、`OnMidiInputDeviceDetached`, `OnMidiOutputDeviceDetached` が呼ばれます。

```

public void OnMidiInputDeviceAttached(string deviceId)
{
    // MIDI 受信デバイスが接続された。
}

public void OnMidiOutputDeviceAttached(string deviceId)
{
    // MIDI 送信デバイスが接続された。
    receivedMidiMessages.Add($"MIDI device attached. deviceId: {deviceId}, name: {MidiManager.Instance.GetDeviceName(deviceId)}");
}

public void OnMidiInputDeviceDetached(string deviceId)
{
    // MIDI 受信デバイスの接続が解除された。
}

```



```

}

public void OnMidiOutputDeviceDetached(string deviceId)
{
    // MIDI 送信デバイスの接続が解除された。
    receivedMidiMessages.Add($"MIDI device detached. deviceId: {deviceId}, name: {MidiManager.Instance.GetDeviceName(deviceId)}");
}

```

コードの全容は `Assets/MIDI/Samples/Scripts/MidiSampleScene.cs` ファイルにあります。

deviceIdからMIDIデバイスの情報を取得する

- `MidiManager.Instance.GetDeviceName(string deviceId)` メソッドを呼び出して、指定されたデバイスIDからデバイス名を取得します。
- `MidiManager.Instance.GetVendorId(string deviceId)` メソッドを呼び出して、指定されたデバイスIDからベンダーIDを取得します。
 - いくつかのプラットフォーム・MIDIの接続種別(BLE MIDI, RTP MIDI)ではサポートされていません。これらの環境では空文字列が返却されます。
- `MidiManager.Instance.GetProductId(string deviceId)` メソッドを呼び出して、指定されたデバイスIDからプロダクトIDを取得します。
 - いくつかのプラットフォーム・MIDIの接続種別(BLE MIDI, RTP MIDI)ではサポートされていません。これらの環境では空文字列が返却されます。

デバイスが切断された場合には、これらのメソッドは空文字列を返却します。

GetVendorId / GetProductIdメソッドが利用可能な環境

Platform	Bluetooth MIDI	USB MIDI	Network MIDI (RTP-MIDI)	Nearby Connections MIDI
iOS	○	○	-	-
Android	○	○	-	-
Universal Windows Platform	-	○	-	-
Standalone OSX, Unity Editor OSX	○	○	-	-
Standalone Linux, Unity Editor Linux	-	-	-	-
Standalone Windows, Unity Editor Windows	-	○	-	-
WebGL	-	△ (GetVendorId only)	-	-

VendorIdの例

APIが異なるため、プラットフォームによって取得されるVendorIdが異なります。

Platform	Bluetooth MIDI	USB MIDI	Network MIDI (RTP-MIDI)	Nearby Connections MIDI
iOS	QUICCO SOUND Corp.	Generic	-	-
Android	QUICCO SOUND Corp.	1410	-	-
Universal Windows Platform	-	VID_0582	-	-
Standalone OSX, Unity Editor OSX	QUICCO SOUND Corp.	Generic	-	-
Standalone Linux, Unity Editor Linux	-	-	-	-
Standalone Windows, Unity Editor Windows	-	1	-	-
WebGL	QUICCO SOUND Corp.	Microsoft Corporation	-	-

ProductIdの例

APIが異なるため、プラットフォームによって取得されるProductIdが異なります。

Platform	Bluetooth MIDI	USB MIDI	Network MIDI (RTP-MIDI)	Nearby Connections MIDI
iOS	mi.1	USB2.0-MIDI	-	-
Android	mi.1	298	-	-
Universal Windows Platform	-	PID_012A	-	-
Standalone OSX, Unity Editor OSX	mi.1	USB2.0-MIDI	-	-
Standalone Linux, Unity Editor Linux	-	-	-	-
Standalone Windows, Unity Editor Windows	-	102	-	-
WebGL	mi.1	UM-ONE	-	-

MIDIイベントの受信

1. `IMidiEventHandler.cs` に定義されている受信インタフェースを実装します。実装するクラス名は→のようなものです `IMidiXXXXXEventHandler`.
 - Note On イベントを受信したい場合には、`IMidiNoteOnEventHandler` インタフェースを実装します。
2. イベント受信をするGameObjectを登録するため、`MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject` メソッドを呼び出します。
3. MIDIイベントを受信したら、実装したメソッドが呼ばれます。

```
public class MidiSampleScene : MonoBehaviour, IMidiAllEventsHandler,
IMidiDeviceEventHandler
{
    private void Awake()
    {
        // このgameObjectでMIDIイベントを受信します。
        // gameObjectは IMidiXXXXXEventHandler を実装する必要があります。
        MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject(gameObject);
        ...
    }
}
```

MIDIイベントの受信:

```
public void OnMidiNoteOn(string deviceId, int group, int channel, int note, int
velocity)
{
    // Note Onのイベントを受信した。
    receivedMidiMessages.Add($"OnMidiNoteOn channel: {channel}, note: {note},
velocity: {velocity}");
}

public void OnMidiNoteOff(string deviceId, int group, int channel, int note, int
velocity)
{
    // Note Offのイベントを受信した。
    receivedMidiMessages.Add($"OnMidiNoteOff channel: {channel}, note: {note},
velocity: {velocity}");
}
```

コードの全容は `Assets/MIDI/Samples/Scripts/MidiSampleScene.cs` ファイルにあります。

MIDIイベントの送信

1. コードのどこかで `MidiManager.Instance.SendMidiXXXXXX` メソッドを呼び出します。一例:

```
// Note Onメッセージを送信
MidiManager.Instance.SendMidiNoteOn("deviceId", 0/*groupId*/, 0/*channel*/,
60/*note*/, 127/*velocity*/);
```

2. 指定する deviceId は `MidiManager.Instance.DeviceIdSet` プロパティから取得できます。(型は `HashSet<string>` です)

```
deviceIds = MidiManager.Instance.OutputDeviceIdSet().ToArray();

...

if (GUILayout.Button("NoteOn"))
{
    // Note Onメッセージを送信
    MidiManager.Instance.SendMidiNoteOn(deviceIds[deviceIdIndex], 0, (int)channel,
(int)noteNumber, (int)velocity);
}
```

コードの全容は `Assets/MIDI/Samples/Scripts/MidiSampleScene.cs` ファイルにあります。

シーケンサー機能の利用

`javax.sound.midi` パッケージから移植されたシーケンサー機能です。

- シーケンサーはStandard MIDI File(SMF)の読み書きができます。
- シーケンサーはMIDIイベントをTrackオブジェクトに記録できます。
 - 記録されたTrackはSMFとしてエクスポートできます。
- シーケンサーは記録したTrackやSMFを再生できます。

シーケンサーの作成と開始

```
// 新しいシーケンサーのインスタンスを作成し、開く
var isSequencerOpened = false;
var sequencer = new SequencerImpl(() => { isSequencerOpened = true; });
sequencer.Open();
```

コードの全容は `Assets/MIDI/Samples/Scripts/MidiSampleScene.cs` ファイルにあります。

SMFをシーケンスとして読み出し、再生する

```
// シーケンサーに、現在接続されているMIDI入出力デバイスの情報を反映します。
sequencer.UpdateDeviceConnections();

// FileStreamからSMFを読み込み、シーケンサーに設定します。
using var stream = new FileStream(smfpPath, FileMode.Open, FileAccess.Read);
sequencer.SetSequence(stream);
// シーケンスを再生します。
sequencer.Start();

...

// 再生を停止します。
sequencer.Stop();
```

シーケンスを記録する

```
// シーケンサーに、現在接続されているMIDI入出力デバイスの情報を反映します。
sequencer.UpdateDeviceConnections();

// 記録するための新しいシーケンスを追加します。
sequencer.SetSequence(new Sequence(Sequence.Ppq, 480));
// シーケンスへのMIDIデータの記録を開始します。
sequencer.StartRecording();

...
```

```
// 記録を停止します。  
sequencer.Stop();
```

シーケンスをSMFとして書き出す

```
var sequence = sequencer.GetSequence();  
// シーケンスの長さをチェック  
if (sequence.GetTickLength() > 0)  
{  
    // シーケンスをSMFとして書き出します。  
    using var stream = new FileStream(recordedSmfPath, FileMode.Create,  
    FileAccess.Write);  
    MidiSystem.WriteSequence(sequence, stream);  
}
```

その他の機能、実験的な機能

いくつかの応用的な機能の使用方法について説明します。
実験的な機能も含まれています。

RTP-MIDI 機能

iOS以外のプラットフォームでの試験的な機能です。

- RTP-MIDIセッションの開始:
 - `MidiManager.Instance.StartRtpMidiServer` メソッドに セッション名 と udpポート番号 を指定して呼び出すと、RTP-MIDI セッションの受け付けが開始されます。
 - これにより 指定したポート番号でUDPポートの受信が開始され、他のコンピュータからアプリに接続できるようになります。
- RTP-MIDI セッションの停止:
 - `MidiManager.Instance.StopRtpMidi` メソッドを呼び出すと、RTP-MIDIセッションの通信が終了します。
- RTP-MIDIが実行されている他のコンピュータに接続:
 - `MidiManager.Instance.ConnectToRtpMidiClient` メソッドを呼び出すと、他のコンピュータとの接続を行います。

```
// UDP 5004 ポートで "RtpMidiSession" というセッション名で受け付けを開始
MidiManager.Instance.StartRtpMidiServer("RtpMidiSession", 5004);
...
// セッションの停止
MidiManager.Instance.StopRtpMidi(5004);

// RTP-MIDI が実行されている他のコンピュータに接続
MidiManager.Instance.ConnectToRtpMidiClient("RtpMidiSession", 5004, new
IPEndPoint(IPAddress.Parse("192.168.0.111"), 5004));
```


MIDI Polyphonic Expression(MPE)機能の利用

現在、実験的に提供される機能で、充分にはテストされていません。

もし不具合を見付けた場合、[サポートのリポジトリにIssueを追加](#)してください。

MPEゾーンの定義

MPE機能を使う前に、最初にMIDIデバイスに対して **MPEゾーン** を定義する必要があります。

```
// MPEゾーンをセットアップ
```

```
MpeManager.Instance.SetupMpeZone(deviceId, managerChannel, memberChannelCount);
```

- **managerChannel** 0: lowerゾーン, 15: upperゾーン
- **memberChannelCount** 0: そのゾーンでMPE機能を無効にする。1から15: MPEを有効にする。
 - lowerゾーンとupperゾーンの両方が設定され、**memberChannelCount** の合計が14を超過した場合、最初に定義されたゾーンが縮小されます。

設定の例:

まず最初に、lowerゾーンを定義します。

```
// メンバーチャンネルが10個のLowerゾーンを定義します。
```

```
// Lowerゾーンのマネージャーチャンネルは 0 です。
```

```
MpeManager.Instance.SetupMpeZone(deviceId, 0, 10);
```

		Lowerゾーン: メンバーチャンネル 10個			通常のチャンネル																												
ch#		0		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15	

次に、メンバーチャンネルが7個のupperゾーンを追加します。

```
// メンバーチャンネルが7個のupperゾーンを追加します。
```

```
// upperゾーンのマネージャーチャンネルは 15 です。
```

```
MpeManager.Instance.SetupMpeZone(deviceId, 15, 7);
```

lowerゾーンのメンバーチャンネルは10から7に縮められます。

		Lowerゾーン: メンバーch. 7個			Upperゾーン: メンバーch. 7個																												
ch#		0		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15	

さらに続いて、lowerゾーンを削除します。

```
// 既存のゾーンを削除するには、メンバー数に0を指定します。  
MpeManager.Instance.SetupMpeZone(deviceId, 0, 0);
```

	通常のチャンネル							Upperゾーン: メンバーch. 7個								
ch#	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

MPEイベントの送信

MPEイベントを送信するには、`MpeManager.Instance.SendMpeXXXXXX` メソッドを呼びます。
一例:

```
// Note Onメッセージを送信  
// 引数 masterChannel は 0(Lowerゾーン)、15(upperゾーン)のいずれかです。  
MpeManager.Instance.SendMpeNoteOn(deviceId, masterChannel, noteNumber, velocity);
```

MPEイベントの受信

MPEゾーンはゾーン設定イベント受信時に自動的に設定されます。

1. `IMpeEventHandler.cs` に定義されている受信インタフェースを実装します。実装するクラス名は→
のようなものです `IMpeXXXXXEventHandler`.
 - Note On イベントを受信したい場合には、`IMpeNoteOnEventHandler` インタフェースを実装します。
2. イベント受信をするGameObjectを登録するため、
`MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject` メソッドを呼び出します。
3. MPEイベントを受信したら、実装したメソッドが呼ばれます。
 - ゾーンが定義されたときは `OnMpeZoneDefined` メソッドが呼ばれます。

```
public class MpeSampleScene : MonoBehaviour, IMpeAllEventsHandler, IMidiDeviceEventHandler  
{  
    private void Awake()  
    {  
        // このgameObjectでMPEイベントを受信します。  
        // gameObjectは IMpeXXXXXEventHandler を実装する必要があります。  
        MidiManager.Instance.RegisterEventHandleObject(gameObject);  
        ...  
    }  
}
```

MPEイベントの受信:

```
public void OnMpeZoneDefined(string deviceId, int managerChannel, int memberChannelCount)  
{
```

```
// ゾーン定義のイベントを受信した。
// managerChannel 0: Lowerゾーン、 15: upperゾーン
// memberChannelCount 0: ゾーン削除、 1-15: ゾーン定義
receivedMidiMessages.Add($"OnMpeZoneDefined managerChannel: {managerChannel},
memberChannelCount: {memberChannelCount}");
}

public void OnMpeNoteOn(string deviceId, int channel, int note, int velocity)
{
    // Note Onのイベントを受信した。
    receivedMidiMessages.Add($"OnMpeNoteOn channel: {channel}, note: {note},
velocity: {velocity}");
}

public void OnMpeNoteOff(string deviceId, int channel, int note, int velocity)
{
    // Note Offのイベントを受信した。
    receivedMidiMessages.Add($"OnMpeNoteOff channel: {channel}, note: {note},
velocity: {velocity}");
}
```

Android, iOS, macOS: Nearby Connections MIDIの利用

GoogleのNearby Connectionsライブラリを使ったMIDIの送受信です。
(現状ではこれは独自実装のため、類似のライブラリとの互換性はありません)

依存パッケージの追加

UnityのPackage Managerビューを開き、左上にある  ボタンを押し、 `Add package from git URL...` メニューを選択します。

以下のURLを指定します。

```
ssh://git@github.com:kshoji/Nearby-Connections-for-Unity.git
```

もしくは、

```
git+https://github.com:kshoji/Nearby-Connections-for-Unity
```

NOTE: 依存パッケージが過去にインストールされていれば、最新版への更新が必要になる場合があります。

Scripting Define Symbolの設定

Nearby Connections MIDIの機能を有効にするには、Player settingsにてScripting Define Symbolを追加します。

```
ENABLE_NEARBY_CONNECTIONS
```

Android向けの設定

Unityの `Project Settings > Player > Identification > Target API Level` 設定を `API Level 33` 以上に設定します。

近隣のデバイスへの広報(Advertise)

近隣のデバイスに対して自分のデバイスを広報するために、

`MidiManager.Instance.StartNearbyAdvertising()` メソッドを呼びます。

広報を停止するには、 `MidiManager.Instance.StopNearbyAdvertising()` メソッドを呼びます。

```
if (isNearbyAdvertising)
{
    if (GUILayout.Button("Stop advertise Nearby MIDI devices"))
    {
        // 広報を停止します。
        MidiManager.Instance.StopNearbyAdvertising();
        isNearbyAdvertising = false;
    }
}
else
{
    if (GUILayout.Button("Advertise Nearby MIDI devices"))
    {
        // 近隣のデバイスに広報を開始します。
        MidiManager.Instance.StartNearbyAdvertising();
        isNearbyAdvertising = true;
    }
}
```

}

}

広報されたデバイスを見つける

Nearby Connections MIDIデバイスを見つけるために、

`MidiManager.Instance.StartNearbyDiscovering()` メソッドを呼びます。

探索を止めるには、`MidiManager.Instance.StopNearbyDiscovering()` メソッドを呼びます。

```
if (isNearbyDiscovering)
{
    if (GUILayout.Button("Stop discover Nearby MIDI devices"))
    {
        // デバイスの探索を停止します。
        MidiManager.Instance.StopNearbyDiscovering();
        isNearbyDiscovering = false;
    }
}
else
{
    if (GUILayout.Button("Discover Nearby MIDI devices"))
    {
        // 近隣で広報しているデバイスの探索を開始します。
        MidiManager.Instance.StartNearbyDiscovering();
        isNearbyDiscovering = true;
    }
}
```

MIDIデータをnearbyで送受信する

MIDIデータの送受信方法については通常のMIDIと同様です。

Meta Quest(Oculus Quest)デバイスを使う

現在、テストデバイスとしてはOculus Quest 2を使用しています。

USB MIDIデバイスと接続する

USB MIDI デバイスの接続を検出するには、以下のコメントを解除してください。

`PostProcessBuild.cs` より抜粋:

```
public class ModifyAndroidManifest : IPostGenerateGradleAndroidProject
{
    public void OnPostGenerateGradleAndroidProject(string basePath)
    {
        :

        // NOTE: Meta Quest 2(Oculus Quest 2) で USB MIDI 機能を使用したい場合は、USB
        MIDI デバイスの接続を検出するために以下のコメントを解除してください。
        // androidManifest.AddUsbIntentFilterForOculusDevices();
```

Bluetooth MIDIデバイスと接続する

AndroidのBLE MIDIデバイスの接続に[CompanionDeviceManager](#)が使えます。

この機能を有効にするには、`Scripting Define Symbols` の設定に
`FEATURE_ANDROID_COMPANION_DEVICE` を追加します。

Project Settings > Other Settings > Script Compilation > Scripting Define Symbols

テストしたデバイス

- Android: Pixel 7, Oculus Quest2
- iOS: iPod touch 7th gen
- UWP/Standalone Windows/Unity Editor Windows: Surface Go 2
- Standalone OSX/Unity Editor OSX: Mac mini 3,1
- Standalone Linux/Unity Editor Linux: Ubuntu 22.04 on VirtualBox
- MIDI devices:
 - Quicco mi.1 (BLE MIDI)
 - Miselu C.24 (BLE MIDI)
 - TAHORNG Elefue (BLE MIDI)
 - Roland UM-ONE (USB MIDI)
 - NOTE: このデバイスはiOSでは動きませんでした。
 - Gakken NSX-39 (USB-MIDI)
 - MacOS Audio MIDI Setup (RTP-MIDI)

連絡先

GitHubでの不具合報告、サポート

- GitHubのサポートリポジトリ <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-supports>
 - 問題の検索と報告: <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-supports/issues>

プラグイン作者

- Kaoru Shoji/庄司 薫 : 0x0badc0de@gmail.com
- github: <https://github.com/kshoji>

使用した自作のオープンソースソフトウェア

- Android Bluetooth MIDI library: <https://github.com/kshoji/BLE-MIDI-for-Android>
- Android USB MIDI library: <https://github.com/kshoji/USB-MIDI-Driver>
- Unity MIDI Plugin Android (Inter App MIDI): <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-Android-Inter-App>
- iOS MIDI library: <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-iOS>
- MidiSystem for .NET(sequencer, SMF importer/exporter): <https://github.com/kshoji/MidiSystem-for-.NET>
- RTP-MIDI for .NET: <https://github.com/kshoji/RTP-MIDI-for-.NET>
- Unity MIDI Plugin UWP: <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-UWP>
- Unity MIDI Plugin Linux: <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-Linux>
- Unity MIDI Plugin OSX: <https://github.com/kshoji/Unity-MIDI-Plugin-OSX>

他者提供による、使用したサンプルMIDIデータ

UnityWebRequest's URLとして指定しています。SMFのバイナリデータ自体はパッケージには含まれていません。オリジナルのウェブサイトが <https> のサービスを提供していないため、サンプルコードでは別のサイトのURLを指定しています。(https://bitmidi.com/uploads/14947.mid)

- Prelude and Fugue in C minor BWV 847 Music by J.S. Bach
 - The MIDI, audio(MP3, OGG) and video files of Bernd Krueger are licensed under the cc-by-sa Germany License.
 - This means, that you can use and adapt the files, as long as you attribute to the copyright holder
 - Name: Bernd Krueger
 - Source: <http://www.piano-midi.de>
 - The distribution or public playback of the files is only allowed under identical license conditions.

バージョン履歴

- v1.0 初期リリース
- v1.1 更新リリース
 - 追加: MIDI シーケンサ(MIDIシーケンスの再生・録音)
 - 追加: SMFの読み取り・書き出し
 - 追加: AndroidでのBLE MIDI Peripheral機能
 - 修正: AndroidでのUSB MIDI受信時の問題
 - 修正: Android・iOSでのBLE MIDI送信時の問題
 - 修正: AndroidでのBLE MIDI送信(velocity = 0でのNoteOn)の問題
- v1.2.0 更新リリース
 - 追加: Androidほかプラットフォーム向けの、試験的な RTP-MIDIサポート
 - 追加: Universal Windows Platform(UWP)向けのUSB MIDIサポート
 - 追加: Android 12の新しいBluetoothパーミッションのサポート
 - 修正: iOS, AndroidでのMIDI送受信のパフォーマンス向上
 - 修正: シーンが複数回追加された際にEventSystemが複数個作成されるエラー
 - 修正: AndroidのBLE MIDIでのタイムスタンプの問題
- v1.2.1 バグ修正
 - 修正: シーケンサーのスレッドが閉じたあとも残る問題
 - 修正: AndroidでのProgramChangeメッセージの受信が失敗する
 - 修正: サンプルシーンでのSystem exclusiveのログが正しく表示されない
 - 修正: UWPでThreadInterruptedExceptionが発生する
 - 修正: SMFでSystem exclusiveを読み書きすると起きる問題
 - 修正: いくつかのパフォーマンス改善
- v1.3.0 更新リリース
 - 追加: Standalone OSX, Windows, Linuxプラットフォーム対応
 - 追加: WebGLプラットフォーム対応
 - 追加: Unity Editor OSX, Windows, Linux対応
 - 変更: シーケンサーの実装を Thread から Coroutine に
 - 修正: iOS/OSX でのデバイス接続・切断時の問題
- v1.3.1 バグ修正
 - [Issue connecting to Quest 2 via cable](#)
 - [Sample scene stops working.](#)
 - [Byte is obsolete on android](#)
 - [Any way of negotiating MTU?](#)
 - [Can't get it to work on iOS](#)
 - [Have errors with sample scene](#)
 - Androidのパーミッション要求についての問題を解消
 - AndroidのCompanionDeviceManager経由での接続をサポート
- v1.3.2 バグ修正
 - Androidのコンパイルエラーを修正
 - SMF再生時のMIDIイベントの順序が正しくなるよう修正
- v1.3.3 バグ修正
 - WebGLのMIDI送信失敗を修正
- v1.3.4 バグ修正

- 過去に接続していたデバイスIDと同じで、デバイス名が違うものが接続されたときに、間違っ
たデバイス名を取得する不具合を修正
- iOS: BLE MIDIデバイス検索のポップアップに「完了」ボタンを追加
- サンプルシーン: BLE MIDIデバイスの検索は Android/iOS のみ使えるよう調整
- MidiManager のシングルトンの設計を調整
- v1.4.0 更新リリース
 - 追加: Android, iOS, macOS向けの Nearby Connections MIDI サポート
 - 追加: WebGL向けの Bluetooth LE MIDI サポート
 - 修正: iOSデバイスでの デバイス接続/切断時のコールバックが間違っていたのを修正
- v1.4.1 更新リリース
 - 修正: [Linuxプラットフォームでのリンクエラーを修正](#)
 - 追加: WebGLプラットフォームでベンダ名/デバイス名をサポート
 - 追加: [iOS/macOS/Linux/Android プラットフォームでアプリ間MIDI接続\(仮想MIDI\)をサポート](#)
 - 修正: サンプルシーンのメモリリークを修正
- v1.4.2 バグ修正
 - 修正: WebGLのサンプルシーンの初期化が失敗する
- v1.4.3 バグ修正
 - 修正: Bluetooth がオフの場合、Android プラグインの初期化が失敗する
 - 修正: Android 14 で USB MIDI デバイスを開けない
 - 修正: Windows プラグインがMIDIデバイスの更新に失敗する
 - 修正: Linux プラグインが MidiManager の終了時にクラッシュする
 - 修正: ゲームプレイを停止した後、Unity エディターが MIDI 機能を停止する
 - 追加: 入出力の deviceId を取得する機能 (全 deviceId の取得メソッドとは別に追加)
 - 追加: MIDI シーケンサーへのデバイス接続を指定する機能
 - 追加: MIDI シーケンサーの再生終了イベントを受信するコールバック
 - 追加: MIDI シーケンサーのイベント タイミングの精度を向上
 - 追加: MIDI シーケンサーの再生位置をマイクロ秒時間で指定できるように
- v1.4.4 バグ修正
 - 修正: Androidプラグインのロードが失敗した時に初期化が中断される
 - 修正: AndroidのBluetooth MIDIがMIDIメッセージを送信できない
 - 追加: AndroidプラットフォームでProGuard minify設定のサポート
- v1.4.5 バグ修正
 - 修正: AndroidのBluetooth MIDIが高負荷のときに送信に失敗する
 - 更新: Androidの新しいBluetooth LEのAPIを使うよう対応
 - 修正: AndroidのCompanionDeviceManager初期化に関する問題を修正。本バージョンから、こ
の機能には `ACCESS_FINE_LOCATION` パーミッションが必要になります。
- v1.5.0 更新リリース
 - 追加: MIDI Polyphonic Expression機能(現在は実験的な状態での提供です)
 - 内部実装を全面的にリファクタリング
 - 更新: SMF読み込みの互換性を向上
 - 修正: SMFの再生が冒頭のイベント付近で失敗する
 - 修正: Androidの入力デバイスの初期化に失敗する